

## タイムベースメディア作品アーカイブにおける鑑賞性の保存・修復・再創造

### 2022 年度活動報告

タイムベースメディアとしての大学

—「沓掛 1980-2023」について—

筆者は芸術資源研究センターの重点プロジェクトとして、鑑賞において時間的な変化を有するタイムベースメディア作品の保存修復に従事している。ここ数年、ダムタイプのパフォーマンス作品《pH》をはじめ、京芸に関連するタイムベースメディア作品のアーカイブプロジェクトに携わってきた。時間軸をともなつて一過的におこなわれることの多いタイムベースメディア作品は、ただ単純に再生装置を技術的に保存するだけでなく、その体験や経験自体をいかに現前するものとして表象することができるかという非物質的な側面を本質としていると筆者は考えている。

そこで、本年度はこの経験の表象に関する問題意識を、芸術作品自体から、芸術作品が生まれる場所の経験に拡大し、京都市立芸術大学の 2022 年度特別研究助成「沓掛学舎アーカイブズ」の一貫として投稿型の写真アーカイブサイト「沓掛 1980-2023」の開発研究を行った。

「沓掛 1980-2023」は、学内外の誰もが沓掛キャンパスの写真を投稿しデジタルアーカイブとして一覧表示できる web サイトである。1980 年から学生や教員が撮影してきた写真の蓄積を「本学に関係する個人々の記憶の集合体」としてまとめ、web 上で閲覧可能にすることを目的としている。

web サイトの可用性としてはモックアップレベルではあるが、限られた予算と人的リソースの中で運用可能なシステムを検討し実装した。開発は 2023 年 1 月現在おおかた終了し、試験運用としてワークショップを開催し 1000 枚程度の写真がすでに投稿されている。1980 年代のものも数枚投稿されており、赤松学長が学生だった画像もあり非常にエモーショナルな感覚を覚える。

ところで、筆者は洛西ニュータウンで生まれた。京都市立芸術大学が今熊野から洛西ニュータウンの北端に移転してきたのは 1980 年だが、その年は筆者の生まれた年でもある。

1970 年代より京都市が進めた大規模住宅計画によって、竹林で覆われる西山丘陵に突如あらわれた街。洛西ニュータウンには様々な思い出があるが、新興住宅地特有の空虚さというか、もっと歴史と文化が蓄積された場所に生まれたかったという単純なコンプレックスも抱えている。まだ子供だった筆者にとっての京芸は、家から一番近い大学である一方、普段自分が生活をしている住宅地域から少し外れた場所で、なにか得体の知れないことをしている人たちがいる謎めいた場所だった。

なにもなかった土地に突如現れた大学。筆者がいくつかの都市や国を經由して、舞い戻るように沓掛キャンパスに赴任した 2014 年、学生たちとの対談の中で「京芸はガラパゴスと呼ばれている」と知った。良くも悪くも外部との交流をあまりもたず独自の文化的生態系を築きあげてきたことを示すその言葉は、ある種の自嘲であるとともに、まっさらな土地で独自の芸術観を築き上げてきた沓掛文化の誇りのようにも解釈できた。京芸はすでに多くの人を知っているように、2023 年に京都駅の真横に移転し、郊外型の大学から都市型の大学に変化する。郊外型の大学で育まれた奇妙だけど固有な芸術の試みは、都市型の大学になることで忘れられるのだろうか。「沓掛 1980-2023」が、日本で最も古い芸術系大学という伝統を抱えつつも、何もない場所で試行錯誤しながら芸術における革新性と新たなアイデンティティを獲得しようとしてきた沓掛キャンパスの特異な経験に、確かな手触りと現在性を与えるようなメディアになることを願っている。

砂山太一

#728

大学院入学式

前の写真

次の写真

エピソード

大学院の入学式。現在の赤松学長も入ってます。偶然にもみんなの服の色合いがマッチしていて、いい感じに撮れました。

情報

CREDIT : マツモトヨーコ  
LOCATION : 中央棟  
YEAR : 1982

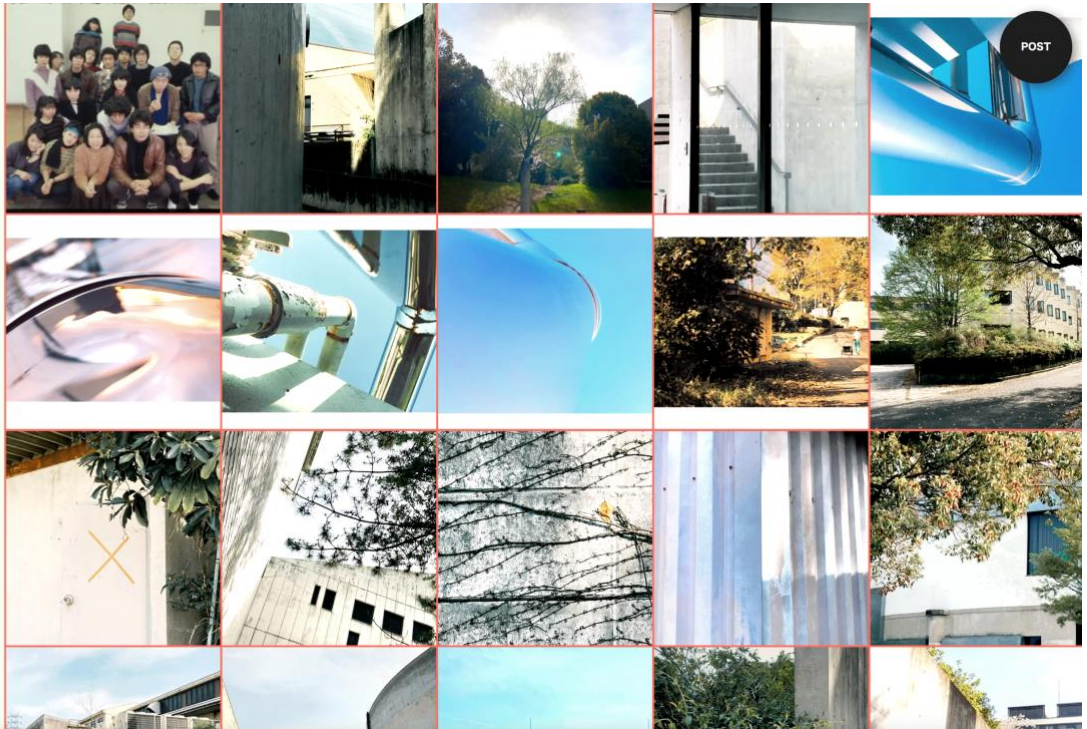


峯樹 1980-2023  
KUTSUKAKE 1980-2023

京都市立芸術大学「峯樹1980-2023」プロジェクトは、本学に関係するみなさんが撮影した京都キャンパスの写真を提供していただき、それを「本学に関係する様々な人の記憶の集合体」としてまとめ、冒険時代の本学の記録をつくらうとするとりくみです。

- TOP
- LOCATION
- YEAR

- ABOUT
- VIDEO
- INTERVIEW
- PRIVACY POLICY
- TERMS OF SERVICE



峯樹 1980-2023  
KUTSUKAKE 1980-2023